

重度障がい児支援 花色

NEWS LETTER

vol.56

2025.10.10



【ぼうさい①】地域 ひなん 訓練



9月29日花色ご利用児の[凜太朗くん]、職員6名、そして当事業所災害対策委員会が毎月行っている[地域交流活動]にご参加頂いている方の中から4名参加いただき、避難訓練を行いました。避難所(北部住民センター)まで370メートル。

「今日は晴れましたが、【雨】を想定して傘をさしてください。」と災害対策委員会が伝え、みんなで歩き始めました。「荷物、重いでしょう？ 変わろうか？」、「これでは荷物や医療機器が濡れちゃうわね。カッパがあると良いわね。」等の声もあがります。順番にバギー(車いす)を押して歩きました。到着後、バギーのタイヤを拭いて館内入り、事務室に「こんにちは。」と挨拶をすると、おじさんが「お！ 花色さん来たね。」と施設名を覚えて迎えてくれました。地域の方が覚えてくれるのは、有難いです。そして研修室では、みんなで【災害にあったら】を考えてみました。

- ①お家で地震がきたら、どこが安全だと思う？
- ②どんな格好をして身を守るの？
- ③揺れがおさまったら、その後どうする？
- ④火はいつ消すのかな？
- ⑤避難する「場所」を知っている？ 地図を見てみよう。
- ⑥広域避難場所って広いね。どこにいるのかを伝えよう。
- ⑦いつも備蓄しているお水はどこにあるかな？「床下って安全？」
- ⑧防災リュックを家族 一人1個 用意するとお金がかかるね。

齊藤家の100均活用防災リュックを見てみようといった内容です。

ほぼ100均
防災リュック



災害は人生で1回 有るか無いか の出来事。それでも、いつ来るかはわかりません。災害大国日本と言われています。地震、大雨、台風。近年は地球温暖化で気象変動が激しい状態です。日常では、誰もがスマートに暮らすことを求めますが、いざ、電気・ガス・水道・トイレ・病院・スーパー・マーケット・車・携帯電話・電子決済等々が使えなくなった時、対応できるでしょうか？生活が途切れると、身体も心も崩れていきます。少しでも適応できるように。そして地域みんなで生き延びれるように災害を想像しておくことが大切です。自分や家族がケガをしない工夫をすること(自助)も今だから考えられます。私たち人間は、コミュニケーションをする力があります。それを高めるのが災害対策にもなります。地域で支え合う関係性をこれからも築いていきます。



イベント情報

10月17日(金)地域ぼうさいミーティング
10月18日(土)職員一日研修(虐待・療育・医療・倫理他)
11月 1日(土)お楽しみ会(利用者様とご家族対象)

苦情対応担当者



ご家族からの要望・苦情
お受けします。

【お楽しみ会】は北部住民センターでおこないます。
・ハープ演奏
・セラピー犬交流
・ボジショニング講習
・ベビーロコに乗って遊びます。パパもママも、おやつを食べて情報交換をしましょう。ぜひ、ご参加くださいね。



はじめまして
保育士
みきさん
です



安心して楽しく過ごして頂けるよう
心を込めて支援していきます。
どうぞ、よろしくお願い致します。

好きなこと: 音楽鑑賞・映画鑑賞



8~9月の花色



NEWS LETTER



スッパイ飲み物もほしい~



指定福祉避難所のトリセツ

被災時の対応



花色が指定福祉避難所になって安心してませんか？

ちょっと考えてください。花色は普通の一軒家です。

『避難できる家族は3組…』という事は、ハザードマップで危険な地域に住む方と、お家が大きく崩れて住めなくなつた方が優先になります。

他にも問題があります。医療用の電源は心もとないです。

かといって、一般避難所では3~4人家族で2メートル四方です。沢山の人が逃げ込みギュウギュウ詰めなので、仕方がないのです。

もちろんオムツ交換等も、そのスペースになります。

なので お願いがあります。被災時を想定して、

在宅避難のために**最低1週間分以上の備蓄品**を用意してください。そして、ハザードマップの危険地域を通らずに行ける知人や親せき宅を探し

「何かあつたら避難させて下さい。」と事前にお願いしておきましょう。(行先を個別避難計画に入れ ておきましょう。) その上で大雨になる前に、早めに避難をしてどうか命を守ってください。(災害時は交通規制が、かかります。) 安全に生き延びてくれないと、周囲も心配で避難できなくなります。みんなのためにも、平常時の備えを今からしましょう。



おすすめ 北海道トウモロウ

文庫cafe

美瑛町(美馬牛)の道の行き止まりに、一軒のカフェがあります。少し前まで宿泊施設でした。今は週3日、1日10食限定の予約制ランチのお店です。

窓から見える景色をながめ、たくさんの本からお気に入りの一冊を選び、手の込んだ身体にやさしい家庭料理をいただけます。日々の忙しさを忘れ、北海道の自然を満喫できますよ。とても素敵なお店です。

